静岡県

産業界のグローバル力結集

日本復興へ「海外生産止めるな」

先端製品 世界へ発信

予算、成長産業や雇用創出に重点配分

健康医療産業 城下町へ

静岡県の２０１１年度の予算編成は、11年度からスタートした新県総合計画の着実な推進をはじめ、厳しい雇用・経済状況への万全の対応、〝ふじのくに〟づくりと財政健全化の両立の３方針を掲げて進めた。次世代につながる成長産業の育成や雇用創出などに予算を重点配分した。

具体的には、環境産業創出事業費に５０００万円を、新たに県試験研究機関が産学官連携で成長分野の研究開発に取り組む新成長戦略研究費に３億円をそれぞれ盛り込んだ。特に、注目度の高いプロジェクトであるファルマバレー（富士山麓先端健康産業集積）プロジェクトには推進事業費など１億２８００万円を計上し、４月１日から第３次戦略計画（11―20年度）をスタートさせた。

静岡県は医薬品と医療機器製造生産額では全国トップクラスにあり、特に東部地区は医薬品・医療機器メーカーが集積している。この特徴を生かしてファルマバレープロジェクトは「世界一の健康長寿県の形成」を基本理念に掲げ、「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を両輪にして施策を推進。いわば健康医療産業の城下町をつくろうというもの。

第１次計画（02―06年度）では中核支援機関のファルマバレーセンターの発足や核となる静岡がんセンターの建設など基盤整備に注力。第２次戦略計画（07年―10年度）では世界的な企業との共同研究や製品開発に力を入れた。「３次では開発した製品を世界に売り込んでいく」（吉林章仁静岡県経済産業部長）と意気込んでいる。

第３次計画では、〝ものづくり〟〝ひとづくり〟〝まちづくり〟〝世界展開〟といった四つの視点から、これまでに開発された製品だけでなく、これから開発される製品についても世界で販売すべく、市場開拓に乗り出す企業を支援する。

さらに研究者、技術者、アドバイザーなどの人材の育成・確保、企業誘致などに力を入れる。「20年には県の医薬品・医療機器合計生産金額の最低目標を１兆円」（同）に置く。

また中部地域のフーズ・サイエンスヒルズプロジェクト、西部地域のフォトンバレープロジェクトとの連携をはかり、自動車など既存産業との多極型の産業構築を目指していく方針だ。

静岡県はファルマバレーセンターの発足や核となる静岡がんセンターの建設など基盤整備に注力

年産台数が100万台を突破したスズキのインド工場

大手

部品確保へ奔走

「グループの英知を結集して危機を乗り越えたい」と、梅村充ヤマハ社長は力強く訴える。静岡県企業は東日本大震災の直接的被害はほとんどなかったが、部品調達などに支障が出て輸送用機器など主要産業が生産停止に追い込まれた。しかしグローバル展開する強みを生かし、技術とノウハウの集積する日本の復興に総力を尽くす。

「インド工場は何としても止めるな」。震災後、鈴木修スズキ会長兼社長の檄が飛んだ。国内４輪車工場は震災の影響で１カ月近くにわたり本格操業できない状態。担当者は国内生産の再開を急ぐ一方、好調な海外工場の操業を維持するため部品確保や代替部品の準備などに奔走している。インド子会社のマルチ・スズキは年間１００万台以上を生産する稼ぎ頭。市場の成長を追い風に「作っただけ売れる」（関係者）状態で、２０１２、13年と相次いで新工場棟を建設する計画もある。

売上高の約９割を海外が占めるヤマハ発動機。震災で国内２輪車生産などが停止したが、販売好調なインドネシアやベトナムなど成長市場への投資は継続する。震災対応では「重点部品対策プロジェクト」を発足し、９アイテムに絞って材料や設計変更に取り組む。

両社は被災地への支援も迅速だった。スズキは多目的に利用できる軽トラック、ヤマハ発は電動アシスト自転車などを現地に提供した。またヤマハ発は被災地で必要とされる発電機を「部品をかき集めながら」（関係者）、グループ会社で生産し続けている。

ヤマハはここ数年の構造改革が功を奏し、12年度を最終年度とする中期経営計画の初年度は「計画を上回る成果」（梅村社長）を挙げた。好調な中国でのピアノ販売や北米市場の回復が明るい材料。震災による影響は懸念されるが、現段階で中経の見直しはしない。

中小

海外を攻略

設備投資や新技術駆使

中小企業も前を向く。大光製作所（静岡県磐田市）は約１億円を投じ、出力５キロワットのドイツ製高出力ディスクレーザー溶接加工機を本社工場に導入、本格稼働した。アルミニウムや銅の高精度加工に適していることから、自動車ボディーの軽量化や電気自動車（EV）部品への応用を提案していく。

「仕事を受注したから設備を入れたのではない。顧客の高い要求レベルにこたえ、新規分野を開拓したい」（橋本正光社長）と将来の成長への布石とする考え。

コバテクノロジー（浜松市東区）は、日本のモノづくりの競争力強化につながる金型用コーティングシステムに着目した。

離型剤の使用量を削減でき、金型の耐久性も高まる技術で玄技術（兵庫県尼崎市）が開発。輸送用機器業界にパイプを持つコバが協力することで販路拡大を目指す。

赤武エンジニアリング（静岡県沼津市）は、独アンドックシステム（バーデンヴァイラー市）と日本での独占販売契約を結び、スプリットバタフライバルブの販売を始めた。機密性が高く、容器間の移し替えや次工程への搬送用など、化学品や医薬品の製造プラントに適している。３年後に売上高５億円を見込む。

老朽化した屋根を補強する「蘇生工法」の受注が好調なのは、トヨコー（同富士市）。既存工場の屋根を延命させるほか、断熱性能の向上を目的に採用されるケースが増えている。蘇生工法はスレート材表面に専用スプレーで断熱、補強防水、耐火などの性能を発揮する３層の樹脂を吹き付ける。短い工期で施工できるのが特徴で、台湾からも引き合いがあるという。

大光製作所は１億円を投じ、出力５㎾のドイツ製高出力ディスクレーザー溶接加工機を導入

コンテナ・超高精度計量装置・自動倉庫などでシステムを構成
おかげさまで創業40周年 40 Anniversary
生産変動や多品種少量生産に対応可能な
マルチ粉体計量システム

コンテナシステム
コンテナと排出機構をドッキング。流動性の悪い粉粒体の完全排出に!

紙袋粉体吸引装置
パウダーワープ
コンタミ皆無の状態で、中身の粉体を次工程に吸引移送する装置。

ISO-9001
ISO-14001
認証取得

スプリットバタフライバルブ
原薬製造など高薬理活性物質をあつかうプロセスでは「封じ込め」技術が重要です。そして原薬の小分け・容器間の移し替え、乾燥機や反応釜へ投入・排出などではスプリットバタフライバルブが多く使用されています。

運ぶ・貯める・計るを1つの機器で行う、オールインワンユニット
かるがるコンベア
振動ダンパー式フィーダ「かるがるフィーダ」に「吸引輸送装置」を合体させ、さらにロードセルにより排出量をコントロールすることに成功しました。「運ぶ」・「貯める」・「計る」が、この一台で実現します。
吸引輸送装置（バキュームコンベア）
積算式計量装置
振動ダンパー式フィーダ（かるがるフィーダ）

その他取扱品目
・連続定量供給装置　・バッチ軽量装置　・小型吸引輸送装置　・空気輸送装置　・スクリューフィーダ
・バグフィルタ　・ロータリーバルブ　・特殊布製サイロ　・貯留サイロシステム

資料送付・テスト迅速対応!　TEL055-925-6666またはTEL03-3263-3407
赤武エンジニアリング株式会社
本社　〒410-0302　静岡県沼津市東椎路632　TEL(055)925-6666　FAX(055)925-6688
東京営業所　〒102-0072　東京都千代田区飯田橋1-5-8　TEL(03)3263-3407　FAX(03)3263-3405
●当社のホームページ及びE-mailアドレス　http://www.akatake.co.jp　info@akatake.co.jp

塑性加工・パイプ加工による
省エネ・省資源・軽量化をご提案します。
自動車部品の
国本工業株式会社
〒431－3104
静岡県浜松市東区貴平町320番地
TEL：053－434－1237　FAX：053－434－2223
E-mail：kuni-tec@kunimotokogyo.co.jp
http：//www.kunimotokogyo.co.jp

無エネ
TRINCの除電器は省エネを超えん
TRINCの
エアを使わない
除電器
無風 TRINC
エアの電気代 0円
従来型のエアを使う除電器
エアの電気代 約30万円（1台あたり）／年
®「空間除電器」「ルームレスクリーンルーム」「無風除電」は(株)TRINCの登録商標です
株式会社TRINC
株式会社TRINCコンサルティング
株式会社TRINCサービス
本社：〒432-8006 静岡県浜松市西区大久保町748-37（浜松技術工業団地内）　TEL:053-482-3412 FAX:053-482-3414
中国CSセンター：〒116600 中国遼寧省大連保税区市場大厦601A　TEL:+86-411-87185908　FAX:+86-411-87185928
ホームページにて「静電気読本」無料配信中　http://www.trinc.org 又は トリンク 検索